

第63回東北・北海道地区母子寡婦福祉研修大会に参加して

開催日 令和元年9月7～8日
場所 山形県天童市

むかわ町つくしの会

松並恵里子

胆振管内母子寡婦福祉連絡協議会の派遣として、事務局と私の2名で出席させて頂きました。東北・北海道地区より約500名の参加者で開催されました。まず、厚生労働省の度会氏より行政説明があり、ひとり親家庭等日常生活支援事業や就業支援事業のマザーズハローワーク事業・高等職業訓練促進事業、養育費確保に関する取り組み等、わかりやすく、丁寧な説明でした。



語り劇の講師 夢実子氏

次に、各地区の方々がテーマに添い、自身の経験や母子会を通じてつながる地域の輪、子ども食堂での学び等、7名の研修討議が行われました。ひとり

親になってからお子さんの病気が発覚し、御自身も生活保護を受給していた

が、ホームヘルパーやケアマネージャーの資格取得をし、さらに小規模デイサービスを立ち上げた方等皆さん、涙を流されながら発表され、今後の活動や、子育てに希望を与えて頂けた討議となりました。苫小牧市の代表の方も大勢の方々に前に大変素晴らしい発表をされていました。



7名のパネラーのみなさん



苫小牧市 鈴木弥生さん

2日目は、講師「夢実子氏」の語り劇が行われ、中川イセ氏の生涯を語った講演に熱心に聞き入っていました。研修大会を通して、私達が抱える現状を参加者と共に共有し、互いに支え合い母子会の会員として今後の活動に繋がる有意義な大会となりました。

令和元年度全国母子寡婦福祉研修大会に参加して

開催日 令和元年10月26・27日
場所 川崎市カルッツかわさき

登別市母子寡婦の会

鈴木 朋子

川崎市は東海道五十三次の宿場街として栄え、川崎大師は多くの観光客で賑わう観光都市でもある。会場入り口では、揃いのジャケットを着たスタッフの方たちが出迎えて下さり、全国から集まった会員が広い会場を埋め尽くしていた。



道母連からの参加者

開会式が始まり、凛とした司会者の進行で主催者挨拶に続き、川崎市副市長さんの歓迎挨拶では、豪雨による浸水被害を受けながらも、全母子協の要請に添えて大会運営を支えて下さっていることに感銘した。その後の祝辞も被災者への見舞い

と生活弱者への思いやりに溢れていた。続いて行政説明、研修討議となり、

テーマごとに6名の母子父子家庭の代表が発表。町役場への就業相談、奨学金をネットで探し母子会の存在を知り、又は紹介されて皆さんの人生が好転している。「あなたの町に子ども食堂はありますか」と投げかけたお母さんは、お子さんと共に居場所を見つけ家族の再構築ができた事を喜び、感謝の言葉で締めくくった。

2日目の講演「乳がんなんて怖くない！」も女性への応援になる内容で、思いやりと励まし、そして感謝の心で満たされた研修大会となり、充実した2日間でした。



湘南記念病院乳がんセンター長 土井卓子氏



自己診断を実践指導